

# エネルギーをテーマにトーク

全国の中小企業の経営者を中心に構成する、エネルギーから経済を考える経営者ネットワーク会議(鈴木伸介代表理事、略称「エネ経会議」)は5月30日、東京都中央区銀座の紙クラブ会館で会員大会を開いた。

## 「地域で経済回そう」

### 小田原の若手経営者ら



左から、エネルギー事業について語る原社長、左手に設置された説明図を見る古川社長、志澤副社長、渡部社長(撮影/高橋真樹)

記念のトークセッション、事業を展開する若手経営者らから、小田原市など、東部から中部、西側でエネルギー、自由化を控え、地域で

古くから展開しているLPガス事業のほか、町有地の提供を受け大井町に建設した太陽光発電所(又ガソラ)、「きらめきの丘おおい」を紹介。発電と地域貢献を結び付け、地元の湘南ベルマーレフットサルクラブとパートナーシップを結んだことなどを話した。

続いて原社長が発言、商工会議所特別委員会のほか、おたわらスマートシティプロジェクト、再生可能エネルギーの活用を進めるべくエネルギーの運営にも関わっていること、自身の経営する小田原ガスを紹介。2017年に都市ガスの小売の完全自由化が決定したことに触れ、今後は省エネ、創エネなども含め「エネ」利用のあらゆる希望に応えられるよう

のエネルギーの地産地消を進めようとする。経営者の視点から考える「テーマ」に語り合い、会場を沸かせた。司会進行役はエネ経会議の鈴木代表理事、パネリストは古川の古川剛士社長、小田原箱根商工会議所エネルギー環境特別委員会の委員長でもある小田原ガスの原正樹社長、ほうとくエネルギーの志澤昌彦副社長、湘南電力の渡部健社長。

古くから展開しているLPガス事業のほか、町有地の提供を受け大井町に建設した太陽光発電所(又ガソラ)、「きらめきの丘おおい」を紹介。発電と地域貢献を結び付け、地元の湘南ベルマーレフットサルクラブとパートナーシップを結んだことなどを話した。

「エネ」利用のあらゆる希望に応えられるよう、今後は、つくった電気を「地産地消」へつなげるかが課題と指摘。このほか渡部社長は、湘南電力がスポーツクラブの湘南ベルマーレとエナリス(東京)が元代田の合資会社である点を説明。新電力として5月からサービスを開始し、地産地消と地域貢献、活性化をコンセプトに、湘南地域の企業と

タル(ひび)として、総合エネルギー企業に脱皮していかなければ、自社の展望を力強く語った。また志澤副社長は、小田原市内に市民ファンドでの出資を得て建設したメガソーラーが、昨年から発電を開始したことを報告。工事や管理を地元の企業、団体に依頼し、地域で経済が回る仕組みづくりに努めている。今後は、つくった電気を「地産地消」へつなげるかが課題と指摘。

連携、電力自由化に方向性。顧客に選んでもらうという考えを向けられると、原社長は地産地消を回していくことが重要だと話した。パネリストのうち2人がガス会社の若手経営者として登場。全国各都府県に及び、半日近い参加者の興味を引いた。

古川社長も、「同じ」のエネルギーの地産地消をどうかと思っ

このほか渡部社長は、湘南電力がスポーツクラブの湘南ベルマーレとエナリス(東京)が元代田の合資会社である点を説明。新電力として5月からサービスを開始し、地産地消と地域貢献、活性化をコンセプトに、湘南地域の企業と